



「思いやりの心を持ち、行動しようとする力」を育てる指導の工夫

—個の発達段階を高めるV L F授業を核にした総合単元的な道徳学習を通して—

糸満市立潮平小学校教諭 下地 恵

1 研究のテーマについて

思いやりの心は大切だと子どもたちはよくわかっている。しかし、思いやりの心をどのように育てるのか、また思いやりの行動を身につけさせるにはどうしたらよいのか。悩みながらもこれまで具体的な指導ができなかった。身体が発達するように、思いやりの心も発達していくことを踏まえ、思いやりの心を発達させる手だての有効性を調べる。

2 研究の特徴

総合単元的な道徳学習計画の中で、思いやりの心を育てるトレーニングプログラムと、発達段階を高めるV L F授業を行う。

多角的思考トレーニング

思いやりの心を発達させるのに効果があるトレーニングプログラムのことである。

★ 週2回朝の会に実施した。

発達段階を高めるV L F授業の実践

V L Fとは思いやり育成プログラムのことである。これまでの道徳授業とは異なり、パートナーインタビューやロールプレイが組み込まれ、子どもの話す活動が多い。その活動の中で、心の発達段階を引き上げる発問を教師が行っていく。

★ 児童の心の発達段階を把握した。

★ 計3回のV L F授業を行った。

3 指導の実際



教師による発達段階を高める声かけ



ペアによるロールプレイ

4 研究の成果

思いやりの心を高めるトレーニングプログラムと個の発達段階を高めるV L F授業を核に総合単元的な道徳学習を実施した結果、子どもたちに思いやりの心と、思いやりの心で行動しようとする力を育てることができた。

私自身あいまいだった「思いやりの心の育成」の指導方法がはっきりとわかった。

「思いやりの心を持ち、行動しようとする力」を育てる指導の工夫
— 一個の発達段階を高めるV L F授業を核にした総合単元的な道徳学習を通して—

糸満市立潮平小学校教諭 下 地 恵

I テーマ設定理由

【これまでの課題】

4月に行った学級の意識調査で53%の児童と59%の保護者が「思いやりの心を育てたい」という願いを持っていることがわかった。この意識調査を踏まえ、「みんなちがってみんないい」をテーマに掲げ総合単元的な道徳学習に取り組んできた。しかし、そのような取組をしても思いやりの気持ちを持ってなかったり、行動に移すことができない児童がいた。そこで私のこれまでの指導の課題を列挙する。

- ① 児童の道徳性発達段階の個人差に気づきつつも、発達段階に応じた指導ができなかった。
- ② 思いやりについて理解させることはできても、それを行動に移すことができなかった。

【めざす児童】

本研究では思いやりの心を持ち、行動しようとする児童の育成をめざす。思いやりの心とは、相手の気持ちを考えて思いをめぐらす心のことだと考える。相手の気持ちを考えるには、その人の立場に立たなければならない。「自分ならどうするか?」、それは、他者の視点に立つことなので役割取得能力だといえる。つまり、思いやりの心は役割取得能力に置き換えることができる。

しかし、思いやりの心（役割取得能力）を持っているからといっても必ずしもその思いが行動に表れることはない。なぜなら、思いやりの心で行動しようとする力はさまざまな視点を獲得しなければ育たないからだ。そのためにも児童に多くの視点を持たせる必要がある。「思いやりの心を持ち行動しようとする力」を育てるためには、児童に以下の力を身につけさせなくてはならない。

- 役割取得能力（相手の感情や思考など心の内を推測する力＝思いやりの心）
- 思いやりの心で行動しようとする力

【思いやりの心を持ち、行動しようとする力を育てるための指導方法】

これらの力を身につけさせる手だてとして渡辺弥生の提案するV L F（思いやり育成プログラム）を道徳の授業に取り入れていきたい。

V L F（思いやり育成プログラム）には、役割取得能力を高めるために、モデリング、ペア学習、ロールプレイ、パートナーインタビューなどが取り入れられている。資料をもとに進められていくこれらの活動は、自分以外の相手を意識させ、さまざまな視点に立たせることができる。また、このプログラムには子どもの行動しようとする気持ちを生かす心理的なアプローチとして、ソーシャルスキルトレーニング（SST）の方法が応用されている。人が行動しようとするとき、他者の気持ちを意識して行動するか、自分の思いだけで行動するかが重要になってくる。これを対人交渉方略というが、V L Fには対人交渉方略を高める要素として、他者の気持ちと自分の気持ちを調整していく活動も含まれている。これまで私の指導では足りなかったものがこのV L F（思いやり育成プログラム）で補うことができると考えた。

そこで、本学級の児童に合わせたV L F授業を行い、授業の中で児童の発達段階レベルを意識した発問・声かけ指導の工夫を行っていく。また、役割取得能力を高めるためのトレーニングプログラムを朝の会に実施する。これらの指導を横断的に行うために、総合単元的な道徳学習計画を作成し、実践していく。

II 研究の目的

「思いやりを持ち、行動しようとする力」を育てるために、研究の視点1、2を核にした総合単元的な道徳学習計画の実践を通して、その指導の有効性を確認する。

III 研究の視点

- 1 役割取得能力を高めるために、朝の会でできるトレーニングプログラムの実施
- 2 個の発達段階を高めるVLF授業の工夫

III 研究の視点1、2を核にした総合単元的な道徳学習の有効性の検証方法

《研究対象児童：4年生30人（抽出児童3人）》

思いやり しようとする 子	身につけさせた 力	全児童への手だて	抽出児への手だて	授業の中での検証	全体の検証
	思いやりの心 (役割取得能力)	・VLF授業 ・役割取得能力を高めるトレーニングプログラム	・児童の役割取得能力の段階に応じた声かけ	・役割取得能力調査 ・ワークシート ・観察	・役割取得能力調査 ・ワークシート ・観察
行動しようとする力 (対人交渉方略)	・VLF授業 ・役割取得能力を高めるトレーニングプログラム ・全教育活動	・児童の対人交渉方略の段階に応じた声かけ	・対人交渉方略調査 ・こころのめあてシート ・ワークシート	・対人交渉方略調査 ・こころのめあてシート ・ワークシート	・対人交渉方略調査

IV 研究の全体計画

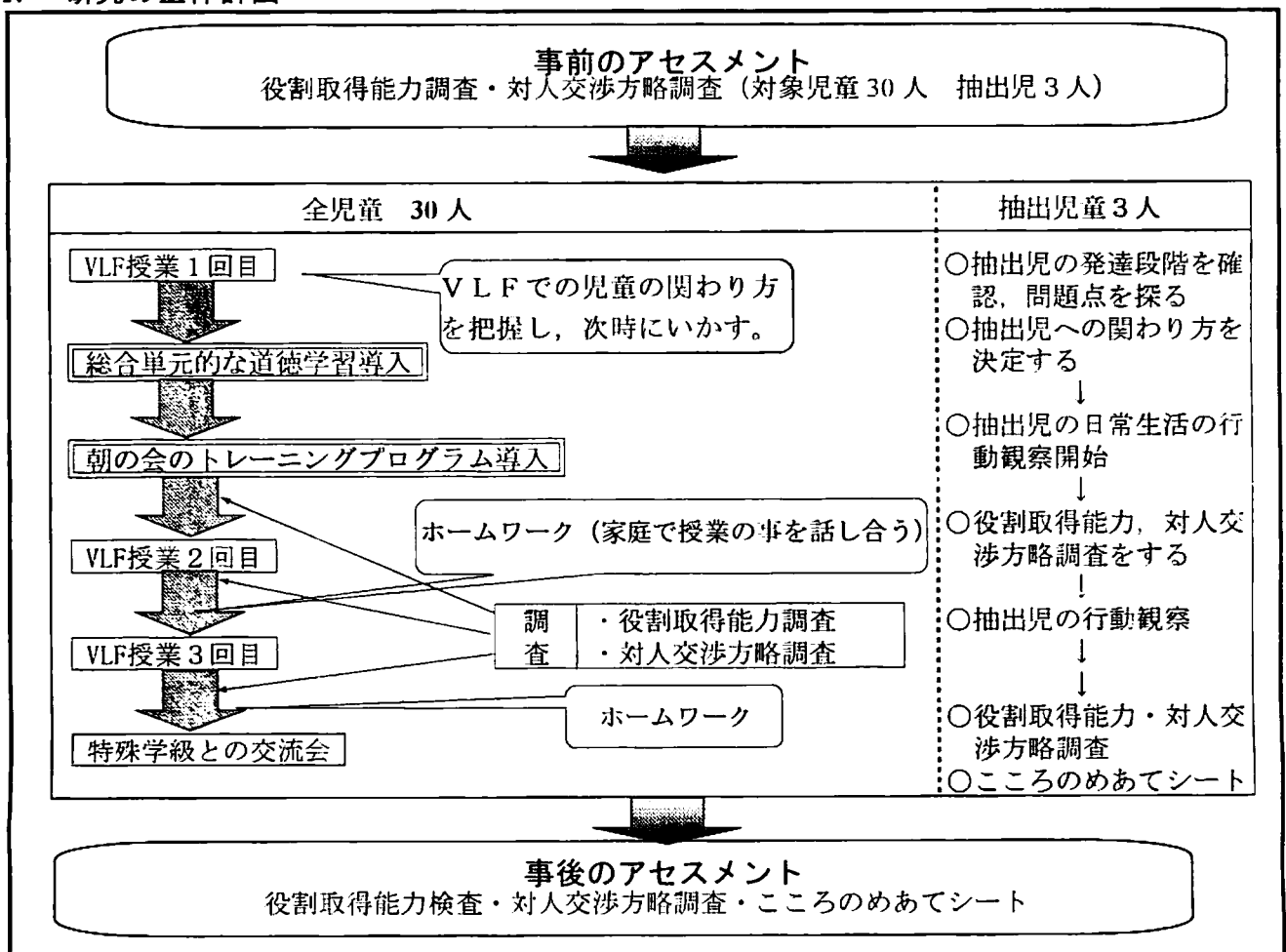


図1 研究の全体計画図

V 研究の内容

1 思いやりの心と行動しようとする力について

役割取得能力
とは思いやり
の心

(1) 思いやりの心（役割取得能力）

思いやりの心をハーバード大学のセルマンは「相手の気持ちを推測し、理解する能力」だとし、これを役割取得能力と提唱している。相手の立場に立ち、その人に必要な支援を考えようとする力のことである。また、相手に必要な支援は何かと考える中で、自分の欲求や気持ちを調整しようとする力も同時に働く。セルマンはこの役割取得能力を以下の3つの力だと考えている。

- ① 自分と他者の違いを意識すること
- ② 他者の感情や思考など心の内側を推測すること
- ③ それに基づいて自分の役割を決定すること

また、役割取得能力の発達段階を幼児期から青年期までを通して5段階で表している（表1）。思いやりの心（役割取得能力）は、段階を追って発達していく。

表1 役割取得能力の発達段階（セルマン）

レベル	役割取得能力段階	特 徴
0	自己中心的 役割取得 (3～5歳)	自分と他者の視点を区別することがむずかしい。同時に、他者の身体的特性を心理面と区別することがむずかしい。 (例：自分が好きなものは他者も好きだと思っている)
1	主観的 役割取得 (6～7歳)	自分の視点と他者の視点を区別して理解するが同時に関連づけることがむずかしい。また、他者の意図と行動を区別して考えられるようになり、行動が故意であったかどうか考慮するようになる。 (例：笑っているから嬉しいなど表面的な行動から感情を予測しがち)
2	二人称相応的 役割取得 (8～11歳)	他者の視点から自分の思考や行動について内省できる。また、他者もそうすることができることを理解する。外からみえる自分と自分だけが知る現実の自分という二つが存在することを理解する。 (例：笑っていても実は悲しいといった状況を理解するようになる)
3	三人称的 役割取得 (12～14歳)	自分と他者の視点以外、第三者の視点をとることができるようになる。したがって、自分と他者の視点や相互作用を第三者の立場から互いに調整し考慮できるようになる。 (例：いじめをテーマに話し合う場合、いじめめ子、いじめられっ子、両方の立場をおさえて、自分の意見を述べることができるようになる)
4	一般化された他者としての役割取得 (15～18歳)	多様な視点が存在する状況で自分自身の視点を理解する。人の心の無意識の世界を理解し、主観的な視点をとらえるようになる。 (例：経験していない立場でもイメージで推論できるようになる)

対人交渉方略
とは行動しようとする力

(2) 行動しようとする力（対人交渉方略）

思いやりについて考えるとき、相手の気持ちを思いめぐらすことだけではなく、それが実際にどのような行動として現れるかということも大切になってくる。対人行動に着目すると、役割取得能力段階の高い子どもでも現実にはうまくいかない次元の低い行動にでてしまう。思いやりの心があるからといって必ずしも思いやりの行動がとれるとはいえない。だから、対人関係において生じる葛藤を理解し、それを解決、調整し、個人的な欲求を満たそうとする手段（対人交渉方略）が必要となる。セルマンはこれについて、対人交渉方略を自己変容指向と他者変容指向の2つのタイプに分けている（表2）。ここでいう自己変容指向は、対人間で葛藤やトラブルが生じたとき、自分の行動を変えようとするタイプである。これに対し、他者変容指向は自分ではなく相手を変えようとするタイプである。役割取得能力の発達段階が高まるにつれ、他者変容指向は暴力から命令、命令から説得、説得から調整へと方向づけられる。また、自己変容指向は、逃避から従属、従属から妥協、妥協から調整へと方向づけられる。そして、両方のタイプが最終的には高いレベルの交渉方略をとることができる。高いレベルの行動（対人交渉方略）を導くためには、役割取得能力を段階を追って育

対人交渉方略
レベル

むことが重要なのである。

表2 役割取得能力と対人交渉方略

他者変容指向	役割取得能力レベル	自己変容指向
暴力	0 (3～5歳)	逃避
命令	1 (6～7歳)	従属
説得	2 (8～11歳)	妥協
調整	3 (12～14歳)	調整

- (3) 思いやりの心（役割取得能力）を持ち、行動しよう（対人交渉方略）とする児童
本研究では相手の心の内を推測し、相手のことを考えて自分の思いを調整し行動しようとする児童を目指す。

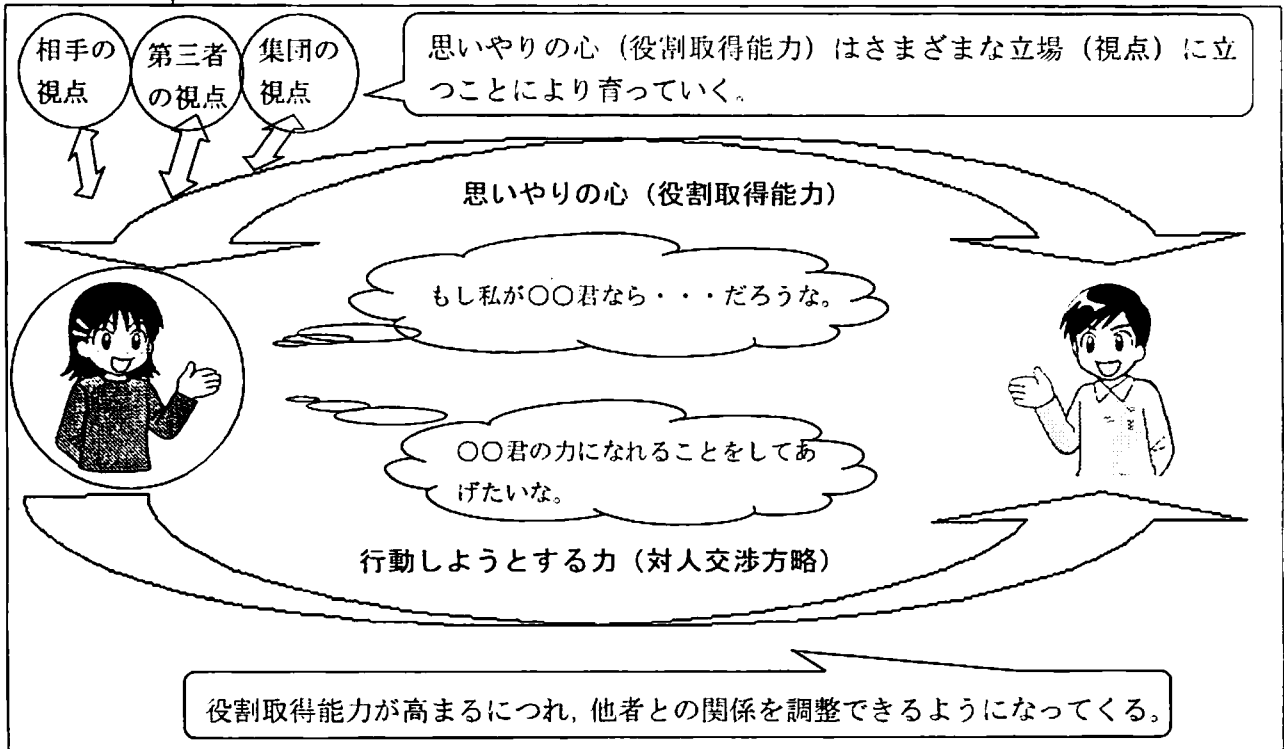


図2 「思いやりの心を持ち、行動しようとする児童」のイメージ図

2 VLF（思いやり育成プログラム）について

VLF=思い
やり育成プロ
グラム

(1) VLF理論

VLFとは「Voices of Love and Freedom」（愛と自由の声プログラム）と呼ばれていて、ハーバード大学のセルマンが開発したものである。VLFは、思いやりの行動を育成するとともに、問題行動を予防し、読む・書く・話す・聞く能力を育てるための人格形成プログラムである。これを、渡辺弥生（法政大学教授）が日本の教育現場に合わせ改変、実践している教育方法である。

思いやりを育成するための教育方法であるVLFは、子どもが自分の気持ちを話したり、自分の感情をうまくコントロールしたり、友だちとの葛藤を解決したりする能力を発達させることを意図している。つまり、「子どもの心の発達段階、特に他人の気持ちや立場を推測する能力である役割取得能力の発達に重点をおいている。（渡辺弥生）」教育プログラムであるといえる。

(2) VLFプログラムの内容

VLFプログラム授業の構成は四つのステップから成り立つ。

	ステップ	指導の特徴	ねらい
導入	ステップ1 (結びつき)	・教師の思い起こしの話 (ウォーミングアップ等)	教師が最初に自分の話をすることによって、自分自身の話をしてもよいという雰囲気児童の心の中に生み出す。
	ステップ2 (話し合い)	・資料に基づいて登場人物の 視点を考える (パートナーインタビュー)	教材(絵本教材等)をもとに立ちどまりながら、登場人物の視点を考え、自分自身の見方を話し、他者から学ぶ機会をもつ。
展開	ステップ3 (実践)	・ペア活動、ロールプレイ ・葛藤のプロセスを意識化 ・問題解決のABC	葛藤する場面を解決するための行動を子どもに考えさせ、実際に動くよう導く。様々な視点を体験し、役割を交代することで異なる立場や気持ちに気づかせる。
	ステップ4 (表現)	・表現活動 (日記、手紙、物語創作)	書く(描く)という表現の中で自分自身やそれ以外の視点に思いをはせ、統合することを行わせる。
終末	ホームワーク	・保護者への手紙、保護者からの感想等	ときには保護者に協力してもらう。学校で学んだことが家庭で実践できるようになるため。

3 指導の工夫について

多角的思考トレーニングプログラム

(1) 役割取得能力を高めるために、朝の会でできるトレーニングプログラムの実施

思いやりの心(役割取得能力)を高めるためには、様々な視点を獲得しなければならない。そのためには、日頃からの練習が必要となる。練習方法として、鈴木憲が作成した多角的思考トレーニングプログラム(資料1)を取り入れる。このトレーニングプログラムは役割取得能力のレベル1から2への発達促進に効果的に作用するといわれている。よって、本研究では朝の会にこのトレーニングプログラムを行う。

●トレーニング(03-5)

この問題はふつうでは考えられないことが起こったとしたら、その時なにが起こるかを、なるべくたくさん書いてもらうものです。もし、この世から植物(草・木・花)がなくなったらどんなことが起こると思いますか。

()

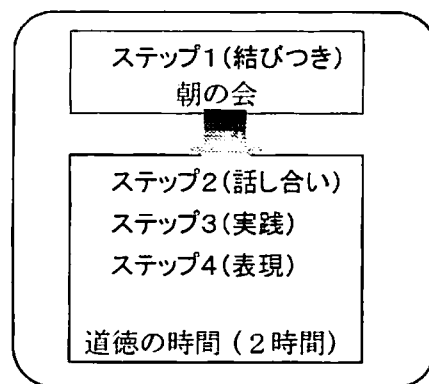
資料1 多角的思考トレーニング(抜粋)

道徳2時間のVLF授業

(2) 個の発達段階を高めるVLF授業の工夫

① 指導過程を工夫したVLF授業の実施

渡辺弥生が提案しているVLF授業はステップ1~4まで4時間扱いとなっている。しかし、現在の学校現場では一つの徳目に4時間費やすのは厳しい。そこで、本研究では、ステップ1を朝の会に、ステップ2、3、4を道徳の2時間で行う。そして、ホームワークとして道徳の授業で話し合ったことを家庭で話し合い、深め合う。



VLF授業の指導過程

レベルを引き上げる「+1効果」

② レベルに応じた発問・声かけをする

役割取得能力調査で児童の段階を確認し、段階に応じた発問を行う。段階に応じた発問とは、児童自身の実際の役割取得能力段階より一段階高い発問を行うことである。例えば、レベル1の児童には、レベル2を意識させる発問を行う。この手だ

ては「+1方略」と言われ、コールバーグによって提唱されている。実際の段階より一段階低い、あるいは二段階高い理由を呈示されたときよりも、一段階上の理由を呈示した時の方がより高い段階に移行することが証明されている。このことから、役割取得能力の限界を参考にしながら、レベル0～3までの段階に応じた発問例(表3)を作成した。

表3 レベルに応じた発問・声かけの工夫

役割取得能	役割取得能力の限界(新垣1989年)	一段階上に引き上げるための望ましい発問例
レベル0	・意図の理解ができない。	「どうして○○になったと思う？」のように、相手の意図を理解させるようにする。
レベル1	・外見的な事実のみに視点がいき、他者の内面を深く考えきれない。	「泣いてるから悲しいといえるの？」のように、見かけの表情と内面は違うかもしれない、と気づかせる。
レベル2	・相互視点がとれない。(同時に二つの視点を客観的にとれない)	「いじめっ子といじめられっ子の気持ちを考えてあなたならどう思う？」のように第三者の視点がとれるように促す。
レベル3	・集団、社会の視点を含む一般的な社会システムのレベルまで考えられない。	「学校の二員としてあなたがやるべきことは何？」のように社会的カテゴリーに所属していることを意識させる。そして二者間の関係性より集団の視点を優先させるように促す。


相手と話し合うときの「ころのめあて」

③ ころのめあてをもたせる

また、相手の視点に立つ話し合い活動(ステップ2・3)では、児童自身に「ころのめあて」をもたせて話し合い活動を行わせる。めあてを持って人と関わる、話し合うことで、子どもの役割取得能力、対人交渉方略も発達していくと考えられる。本研究のころのめあてシート(資料2)は、対人交渉方略に基づいて作成したものである。児童自身が他者変容指向か自己変容指向かを意識することで、役割取得能力の段階に合わせ、自分のめあてがわかる仕組みになっている。

ころのめあてシート めあてをもってころをきたえよう

他の人と話し合うとき、あなたはどんな気持ちでいることが多いですか？自分の気持ちに近いと思う方をえらび、一にそって進んでいくと、今日のあなたの話し合い活動のめあてがわかります。



他の人と話し合うとき、あなたの意見と相手の意見がちがってしまいました。あなたならどうすることが多いですか？

	自分の意見をとおす	相手に合わせる	
	自分の意見を通すためあなたはどうしますか？①、②、③からえらんでね。	自分の意見を通すためあなたはどうしますか？①、②、③からえらんでね。	
今日のころのめあて	①自分の意見を通すため、けんかや暴力を行う。	①何も話し合いたくないし逃げたい気持ち。相手の意見に合わせる。	今日のころのめあて
★相手に手をださない。 ★自分の意見を説明しよう。	②自分の意見を通すように命令する。	②私の意見はどっちでもいい。相手に合わせる。	★自分の考えを持って話し合いに参加する。 ★相手の意見を聞く。
★無理矢理意見を通さない。 ★相手にわかってもらうまで説明しよう。			★どっちでもいいと思わず相手の意見を聞き、なっとくしてから相手の意見に合わせよう。

資料2 ころのめあてシート(抜粋)

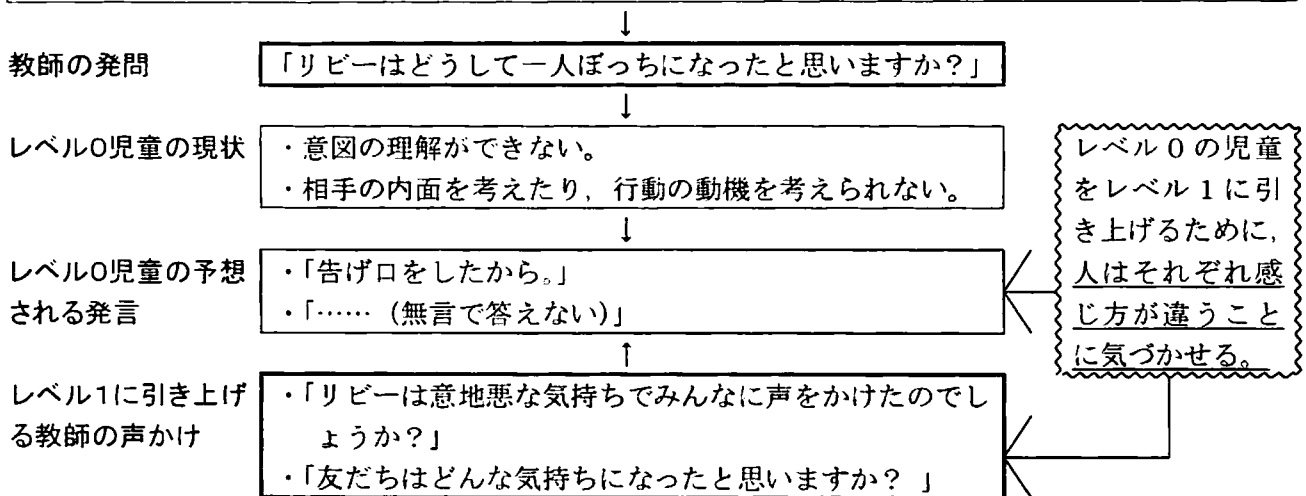
レベルに応じた発問・声かけのしかた

- ④ VLF授業において、児童のレベルに応じた発問・声かけのしかた「+1効果」を意識し、段階を引き上げるための声かけを導き出す具体的な流れを示していく。ここでの絵本資料は本時の授業で用いた『ほんとうのことをいってもいいの?』を使う。

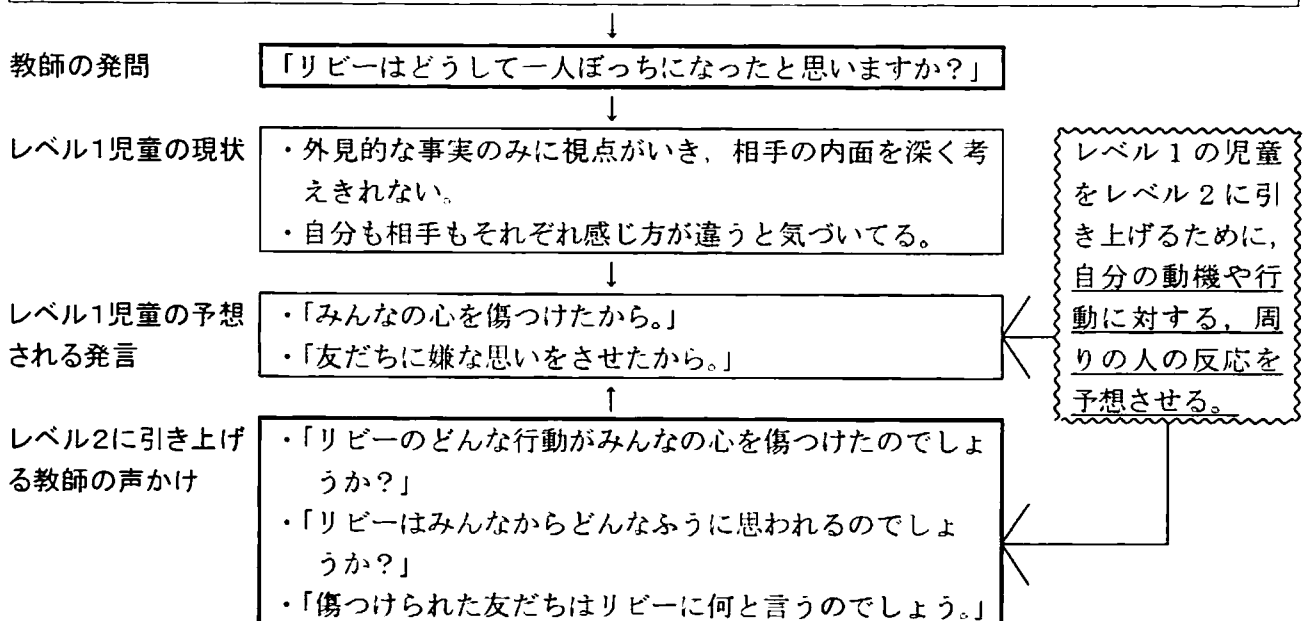
あらすじ	主人公のリビーは初めてついた嘘で母親に叱られ、これからは本当のことだけ言おうと決意する。ところが正直になろうとすればするほど、友だちを傷つけてしまうことになる。一人ぼっちになったリビーに母親は「思いやりをもって本当のことをいうのは正しいこと」だと話す。
------	--

☆レベル0の児童とレベル1の児童について発問・声かけの具体例を以下に示す。

例1:レベル0の児童の役割取得能力を高めるために、一人ぼっちになってしまったリビーの状況と友だちの気持ちについて考えさせる。



例2:レベル1の児童の役割取得能力を高めるために、一人ぼっちになってしまったリビーの状況と友だちの気持ちについて考えさせる。



☆児童のレベルを引き上げるために、前ページに載せた表3を参考にする。

VI 授業実践

1 総合主題 「思いやりの心を持って行動しよう」

2 総合主題について

(1) 価値観

(2) 児童観

(前に記載してるので省略)

(3) 指導観

3 VLF授業を核にした総合単元的な道徳学習計画

児童の意識の流れ	道徳・教科・その他の活動	学校の日常生活	朝の会
<ul style="list-style-type: none"> ・自分はある特徴があるんだな。 ・ほめられるってうれしいな。 ・友達喜んでくれるっていいな。 ・誰でも自分らしきがあるんだな。 ・私の立場は周りの状況や関わりによって変わっていくんだな。 ・友達もそれぞれ自分の立場や考えがあるんだな。 ・障害のある人の生活は不便だ。だけど、不幸ではないんだな。 ・苦手と思っていた友達にも思いや気持ちがあるんだな。 ・相手の気持ちや立場をわかってあげたいな。 ・相手の気持ちを考えて話すと相手を傷つけてしまうんだな。 ・相手の気持ちを考えてやさしくしたいな。 	<p>特活「私（ぼく）ってどんな人？」 ねらい：自己を見つめ、自分自身をどう捉えているのか明らかにする。</p>	<p>読み聞かせ 『たいせつなきみ』 ねらい：周囲の評価ばかり気にせず、ありのままの自分を受け入れ、好きになる。</p>	<p>★火曜日、金曜日の週2回は、役割取得能力を高めるための朝の会トレーニングプログラムを行う。</p> <p>☆VLFの授業があるときは、ステップ1を行う。</p>
	<p>特活「すばらしい友だち」 ねらい：「ほめる」ことを通して友だちのいいところを知る。活動を通して、ほめる・ほめられる気持ちを感じる。</p>	<p>読み聞かせ 『わたし』 ねらい：立場が変われば、視点のとらえ方も変わることに気づく。</p>	
	<p>道徳「友だちの気持ち」(VLF) 資料『たまちゃん、大すき』 ねらい：友だちの立場や気持ちを理解し、よりよい友だち関係を築いていこうとする態度を養う。</p>	<p>ホームワーク：道徳の授業で話し合ったことを家庭で話し合う。</p>	
	<p>総合「アイマスク体験」「バリアフリーさがし」 障害のある人の生活に関心を持ち、その不便さに気づく。また、自分のできる手助けは何かを考える。</p>	<p>読み聞かせ 『あの子』 ねらい：うわさだけで人を判断してはいけないと気づく。</p>	
	<p>道徳「仲良くなる方法」(VLF) 資料『ティムはだいじなともだち』 ねらい：苦手だと思っている友だちの立場や気持ちを考え、仲良くしていきたいという態度を養う。</p>	<p>読み聞かせ 『あたしの声がすき』 ねらい：相手のことを考えた思いやりに気づく。</p>	
	<p>特活「いい人間関係をつくらう」 ねらい：自分と相手の気持ちを考えることができ、望ましいコミュニケーションの方法がわかる。</p>	<p>ホームワーク：道徳の授業で話し合ったことを家庭で話し合う。</p>	
	<p>道徳「思いやりのことば」(VLF) 資料『ほんとうのことをいってもいいの？』 ねらい：本当のことでも相手の気持ちを考えないで声をかけると人を傷つけることがあると気づく。</p>		
	<p>総合「みんなと心で触れ合い隊」 障害のある友だちの気持ちを考え、お互いが楽しめる交流をすることができる。</p>		

図3 研究の視点1, 2を核にした総合単元的な道徳学習計画図

4 本時の学習

(1) 主題名 思いやりの言葉

(2) 資料名 「ほんとうのことをいってもいいの？」 パトリシア・C・マサキック作

(3) 主題設定理由

「正直」と「思いやり」はともに、大切な徳目である。子どもたちもそれを熟知している。しかし、正直であろうとする行為がときに人を傷つける結果を生み出す。正直でいようとする行動だけが先行し、行動の基になる心（思いやりの心）がないとき人を傷つけてしまうことになる。たとえ本当のことでも、相手の気持ちを考えなければその人を傷つけてしまうことに気づかせたい。そして思いやりの心を持って言葉かけをする大切さを感じ取らせたい。

(4) 本時のねらい

相手の立場に立って考え、思いやりの言葉かけをしようとする態度を育てる。

(5) 本時の授業の視点

- ① 主人公リビーだけでなく周りの友だちの気持ちを考えさせる（役割取得能力を高める）ためにパートナーインタビューを行う。
- ② 思いやりのある声のかけ方がわかる（対人交渉方略を高める）ために、ロールプレイを行う。
- ③ 児童自身が自分のめあてを意識し、主体的に話し合う（パートナーインタビュー・ロールプレイ）ために、こころのめあてシートを活用する。
- ④ 児童の役割取得能力・対人交渉方略を高めるために、教師が抽出児童のレベルに応じた声かけ（+1効果）を行う。

(6) 展開

	学習活動(主な発問と予想される反応)・児童のレベルに応じた声かけ	★留意点, ☆視点の検証							
結びつき・朝の会	ねらい：教師の体験談を聞き、心を開いていく。								
	1 教師の体験談を聞き、自分の気持ちを話す。	★本時のねらいに気づく。							
話し合い・4校時	ねらい：パートナーインタビューを通して様々な考えがあることに気づく。								
	2 資料（リビーが立ちつくす場面まで）を聞く。 ○リビーの状況をパートナーインタビューで考える。	☆視点の検証3。 こころのめあてシートで自分のめあてを確認し話し合う。 (シート・観察)							
	本当のことを言ってるのにどうしてリビーは一人ぼっちになってしまったのでしょうか。 (定型) どうして一人ぼっちになったと思いますか？								
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>役割取得能力</th> <th>レベルに応じた児童の予想される発言</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル0 教師の声かけ</td> <td>告げ口をしたから。 ・リビーは意地悪な気持ちでみんなに声をかけたのですか。</td> </tr> <tr> <td>レベル1 教師の声かけ</td> <td>みんなの心を傷つけたから。 ・リビーのどんな行動がみんなの心を傷つけたのでしょうか。 ・リビーはみんなからどう思われるのでしょうか。 ・傷つけられた友だちはリビーに何と言うのでしょうか。</td> </tr> <tr> <td>レベル2 教師の声かけ</td> <td>お母さんの言ってることをちゃんとわかってなかった。 ・リビーはどんなところがまちがっていたと思いますか。 ・リビーはどうした方がいいのでしょうか。</td> </tr> </tbody> </table>	役割取得能力	レベルに応じた児童の予想される発言	レベル0 教師の声かけ	告げ口をしたから。 ・リビーは意地悪な気持ちでみんなに声をかけたのですか。	レベル1 教師の声かけ	みんなの心を傷つけたから。 ・リビーのどんな行動がみんなの心を傷つけたのでしょうか。 ・リビーはみんなからどう思われるのでしょうか。 ・傷つけられた友だちはリビーに何と言うのでしょうか。	レベル2 教師の声かけ	お母さんの言ってることをちゃんとわかってなかった。 ・リビーはどんなところがまちがっていたと思いますか。 ・リビーはどうした方がいいのでしょうか。
役割取得能力	レベルに応じた児童の予想される発言								
レベル0 教師の声かけ	告げ口をしたから。 ・リビーは意地悪な気持ちでみんなに声をかけたのですか。								
レベル1 教師の声かけ	みんなの心を傷つけたから。 ・リビーのどんな行動がみんなの心を傷つけたのでしょうか。 ・リビーはみんなからどう思われるのでしょうか。 ・傷つけられた友だちはリビーに何と言うのでしょうか。								
レベル2 教師の声かけ	お母さんの言ってることをちゃんとわかってなかった。 ・リビーはどんなところがまちがっていたと思いますか。 ・リビーはどうした方がいいのでしょうか。								
○パートナーインタビューの結果を話し合う。 ○資料の続き（ママの話の場面まで）を聞く。 ○ママの言葉をフラッシュカードで確認する。	☆視点の検証1。 主人公リビーや周りの友だちの気持ちを考える。 (観察・ワークシート)								

ねらい：パートナーインタビュー，ロールプレイを通して思いやりをもって声をかけることの大切さに気づく。

3 資料の続き（オルボスの場面まで）を聞く。

○オルボスのことを言われたリビーの気持ちをパートナーインタビューで考える。

☆視点の検証1.

主人公リビーやヴァージニアの気持ちを考える。
(観察・ワークシート)

ヴァージニアにオルボスのことを言われたリビーはどんな気持ちになったのでしょうか。

(定型)「そのうま，よぼよぼね」と言われたリビーはどんな気持ちになりましたか？

☆視点の検証4.

教師の声かけによって児童のレベルを1段階上に引き上げる。
(教師の声かけ表を見ての観察)

役割取得能力	レベルに応じた児童の予想される発言
レベル0 教師の 声かけ	そんなことないよ。 ・ヴァージニアはどうしてそんなことを言ったのでしょうか。 ・意地悪な気持ちで言ったのでしょうか。
レベル1 教師の 声かけ	意地悪で嫌な人だな。 ・リビーも同じようなことを友だちにしていなかったですか。 ・友だちも今のリビーと同じ気持ちではないのでしょうか。
レベル2 教師の 声かけ	本当の事だけど，そんな言い方は傷つくよ。 ・本当の事を傷つけないように言うにはどうしたらいいと思いますか。

声かけのポイント！

心理的理由，相手の意図を気づかせる。

自分は他者からどう見られているかによって，自分の行為や動機を振り返る能力を持たせる。

複数の視点を同時に調整することに気づかせる。

☆視点の検証3.

こころのめあてを意識して話し合うことができる。

(観察・ワークシート)

☆視点の検証2.

リビーになって思いやりのある声のかげ方ができる。

(観察・ワークシート)

○パートナーインタビューの結果を話し合う。

○資料を最後まで読む。

○ママの言葉の意味を理解したリビーになってロールプレイする。

今のリビーなら，友だちとの場面にもどったとき，どんな言葉をかけるのでしょうか。

声かけのポイント！

ロールプレイでリビーを演じた時，予想される児童の発言と対する教師の声かけ		
他者変容指向の児童 予想される発言	対人交渉 方略	自己変容指向の児童 予想される発言
靴下に穴があいてるよ。 ・会ってすぐそのようなことを言われたらルーシーはどんな気持ちになると思いますか。	レベル0 教師の 声かけ	「……。」(何も言わない) ・あなたがお気に入りの服を着た時，何も言われなかったらどう感じますか。
その服かわいいけど，靴下に穴があいてるよ。 ・みんなの前で靴下のことを言われたらルーシーはどうなると思いますか。	レベル1 教師の 声かけ	その服かわいいね。(靴下のことは言わない) ・ルーシーが靴下に穴があいてるのを気づかないままいたらどうなるのでしょうか。
その服とても素敵。(小声でも靴下に穴があいてるよ。 ・リビーはこれからどんな事に気をつければいいのか。	レベル2 教師の 声かけ	その服素敵ね。(小声でも靴下をちよつと見て。 ・リビーはこれからどんな事に気をつければいいのか。

他者変容指向の児童には

レベル0の児童
・自分の気持ちを素直に伝え相手の気持ちを考えるように促す。

レベル1の児童
・相手の気持ちを推測させる。また自分の気持ちをわかたせようとする。

レベル2の児童
・自分の意見を相手にしっかりと伝える。また自分の意見と相手の意見を調整していくようにする。

☆視点の検証4.

教師の声かけによって児童のレベルを1段階上に引き上げる
(教師の声かけ表を見ての観察)

実践・5校時

ロールプレイでルーシを演じた時、予想される児童の発言と対する教師の声かけ		
他者変容指向の児童 予想される発言	対人交渉 方略	自己変容指向の児童 予想される発言
うるさい。 ・あなたがリビーならそんな風 に言われたらどう思いますか。	レベル0 教師の 声かけ	「……。」(何も言わない) ・自分の気持ちを相手に伝え ましょう。 ・リビーは意地悪な気持ちで 靴下の穴のことを言ったの ですか。
そんなの知ってたよ。 ・リビーはどんな気持ちで教 えてくれたのでしょうか。 ・本当はどう言うべきなので しょうか。	レベル1 教師の 声かけ	あなたには関係ないよ。 ・もしリビーが教えてくれな かったらどうなっていたと 思いますか。 ・自分の気持ちをリビーに伝 えましょう。
教えてくれてありがとう。 ・相手を傷つけずに話しをす るにはどうすればいいので しょう。	レベル2 教師の 声かけ	気づかなかった。教えてくれ てありがとう。 ・相手を傷つけずに話しをす るにはどうしたらいいので しょう。

声かけのポイント！

自己変容指向の児童には
レベル0の児童 ・自分の思いや気持ちに気づ かせる発問。また相手の気 持ちを考えるように促す。
レベル1の児童 ・相手の気持ちを推測させつ つ、自分の気持ちもわかっ てもらうように伝える。
レベル2の児童 ・自分の意見を相手に納得し てもらい、相手の意見と自 分の意見を調整する。

☆視点の検証3。
こころのめあてシートを意識し
て話し合うことができる。
(観察・ワークシート)

表現・	ねらい：資料を通してわかったことをまとめるとともに、これまでの自分を振り返る。
5	4. リビーに手紙を書く。
校時	これまでの自分の経験を振り返りながら、リビーに手紙を書きましょう。
	★自分の考えを表現できる。

5 本時の結果と考察

表4は授業の視点(①～④)について、ワークシート・観察から学級全体を基に考察する。

表4 学級全体の評価(学級人数：30人)

本時の授業の視点	評価場面・評価方法	評価
① パートナーインタビューを行うことで、主人公リビーや周りの友だちの気持ちを考える(役割取得能力を高める)ことができたか。	パートナーインタビュー場面の観察、ワークシート	A 25人
② ロールプレイをすることでリビーになって思いやりのある声かけ(対人交渉方略を高める)ができたか。	ロールプレイ場面の観察、ワークシート	B 21人
③ こころのめあてシートを使うことで、こころのめあてを意識して話し合うことができたか。	パートナーインタビュー、ロールプレイ場面の観察、シート	A 27人
④ 教師の声かけによって、抽出児(3人)の発言のレベルが1段階上に引き上げられたか。	パートナーインタビュー、ロールプレイ場面の観察、ワークシート	A 3人

・24人以上の児童にレベルの上昇がみられた…A ・18人～23人の児童にレベルの上昇がみられた…B
・抽出児3人中、3人全員のレベルが上昇した…A

視点① パートナーインタビューを行う事で、主人公リビーや周りの友だちの気持ちを考える(役割取得能力を高める)ことができたか。

パートナーインタビューは、役割取得能力のレベルの異なるもの同士をペアにした。お互いにインタビューしあうことで、レベルの低い児童の発言がレベルの高い児童の発言によって引き上げられた。また、教師が役割取得能力のレベルを意識した声かけをすることで、児童の発言レベルが上がったこともわかった。《発言レベル上昇 25人》

例	教師「リビーはどうして一人ぼっちになってしまったのかな？」→レベル0の児童「文句を言ったから」(レベル0の発言) 教師「リビーは意地悪な気持ちでみんなに声をかけたのかな？」→レベル0の児童「意地悪な気持ちではないけど、みんなの(レベル1の発言に上昇) → 心を傷つけたから一人になった」
---	--

視点② ロールプレイをすることでリピーになって思いやりのある声かけ（対人交渉方略を高める）ができたか。

ロールプレイ（疑似体験）をすることで、相手の気持ちを考えながら声かけをすることができた。どのように声かけをすればよいのか迷っていた児童も、ロールプレイを行うことで、自然と声がだせるようになった。《発言レベル上昇 21 人》

例 リピー役（レベル2の児童）「その服いいね。でも（小声で）靴下に穴が空いてるよ。」→ルーシー役「本当だ、ありがとう。」

視点③ こころのめあてシートを使い、こころのめあてを意識して話し合うことができたか。

話し合い活動の導入で、児童自身にこころのめあてシートを記入させた。そのシートから児童は自分の話し合いのめあて（こころのめあて）を明確にした。ペアになって話し合う（パートナーインタビューやロールプレイを行う）際に、児童は自分のこころのめあてを意識して活動することができた。《こころのめあてを意識して話し合うことができた児童 27 人》

児童	・私は人に合わせてばかりで自分の意見を言えなかったけど、今日は自分の意見を言えてうれしかった。
感想	・いつも人の話を聞かないでいたけど、今日は相手の話を聞いて、相手の気持ちがよくわかった。

視点④ 教師の声かけによって抽出児（3人）の発言レベルが1段階上に引き上げられたか。

抽出児童3人ともに、発言レベルは1段階上に引き上げられた。授業後の役割取得能力、対人交渉方略の調査でも、レベルが1段階上に上がった。

レベル1の C児の場合	教師「リピーはどうして一人ぼっちになったのかな？」→C児「友達に嫌な思いをさせたから。」（レベル1の発言）
	教師「リピーのどんな行動がみんなの心を傷つけたの？」（レベル2へ引き上げる発問）
	→C児「本当のことかもしれないけど、相手の気持ちを考えなくて言っていた。」（レベル2の発言に上昇）

VII 研究の結果と考察

研究の考察は役割取得能力調査と対人交渉方略調査の結果をもとに行う。役割取得能力調査は『VLFによる思いやり育成プログラム（渡辺弥生）』の中にあるソーシャルスキル尺度を活用する。また対人交渉方略調査は、セルマンの役割取得能力と対人交渉方略の関連図をもとに調査表を作成し、活用した。

1 「役割取得能力を高めるために、朝の会でできるトレーニングプログラム」について

役割取得能力の上昇

鈴木憲が作成した多角的思考トレーニングプログラムを週2回、朝の会に行った。このトレーニングを始める前に行った役割取得能力調査の結果と、トレーニングを始めて3ヶ月たった後の調査結果を比べてみると、図4のようになった。事前調査時にはレベル0の児童が2人、レベル1の児童が7人で学級の役割取得能力の平均も2だったが、1月の調査ではすべての児童がレベル2に上がり、平均も2.3と上昇した。よって、多角的思考トレーニングは役割取得能力を上昇させるのに効果があったといえる。

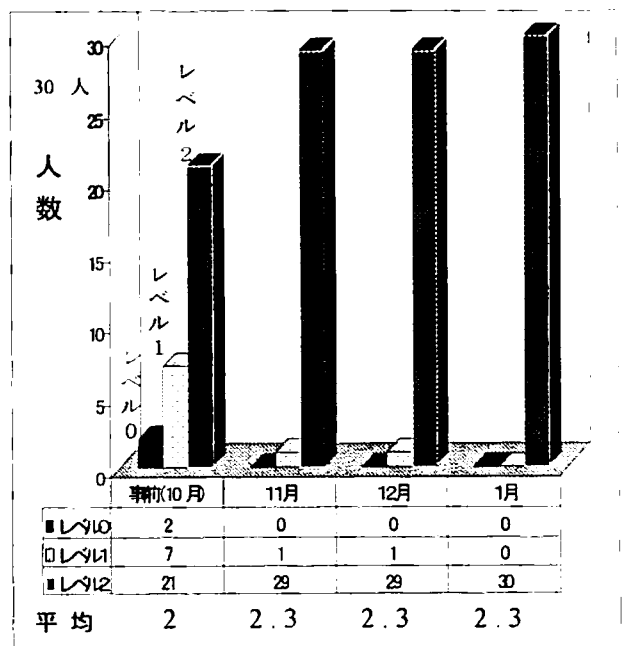
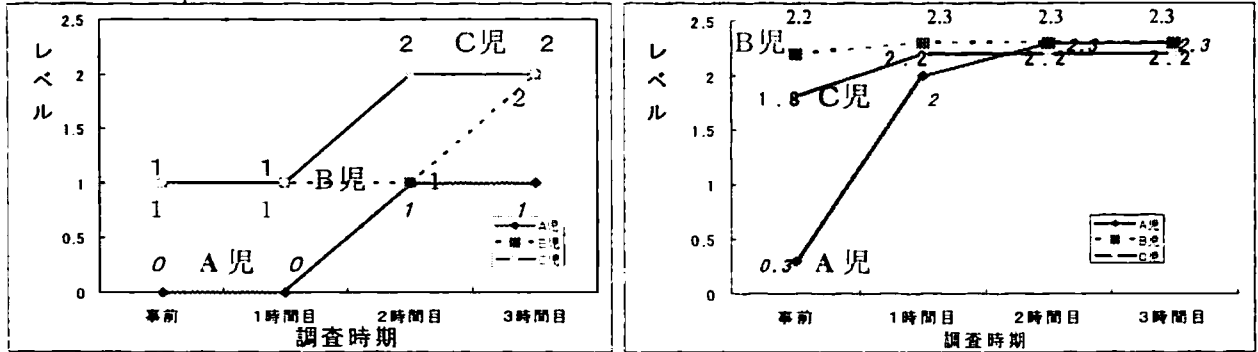


図4 児童の役割取得能力の人数と平均の変化

2 「個の発達段階を高めるVLF授業の工夫」について

VLF 授業の工夫として児童それぞれの役割取得能力，対人交渉方略のレベルを把握し「+1効果」を意識した発問・声かけを行った。そして児童のレベルが上昇したかを知るために，授業の前後に役割取得能力，対人交渉方略の調査を実施した。その結果，全児童にレベルの上昇が見られたが，ここでは抽出児童の役割取得能力，対人交渉方略の変化についてまとめた。(図5)



抽出児のレベル
の変化

図5 抽出児のレベルの変化

図5より抽出児童3人の役割取得能力，対人交渉方略のレベルは「+1効果」を意識した声かけで上がったことがわかる。このことから，児童の発達段階レベルを意識した教師の発問・声かけ指導の工夫は，レベルを上昇させるのに効果があったといえる。

また図6はVLF授業を実施した本学級（実験群）とVLF授業を取り入れなかった学級（統制群）との役割取得能力，対人交渉方略の事前と事後に行った調査の比較である。役割取得能力，対人交渉方略がともに伸びている本学級（実験群）に比べ，統制群学級の役割取得能力は変化が見られなかった。また，対人交渉方略は事前調査よりも下がっていた。

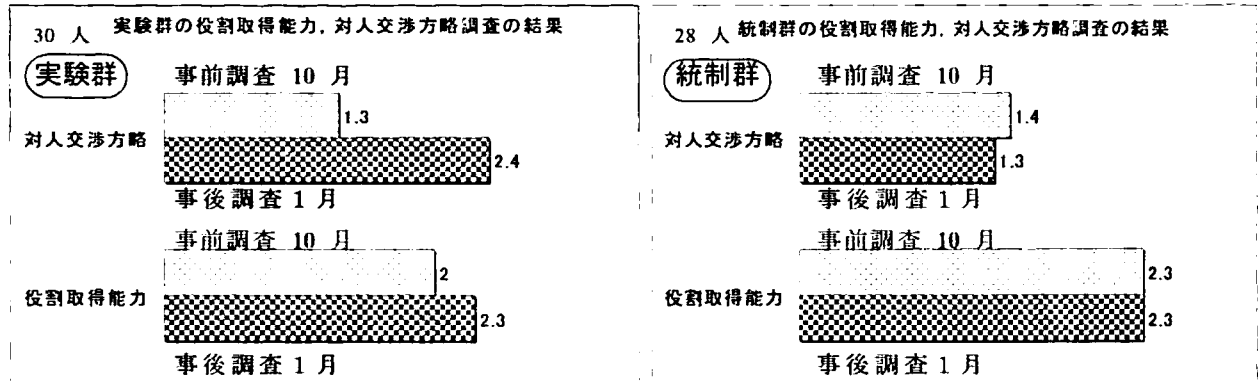


図6 本学級とVLF授業を行っていない学級の役割取得能力，対人交渉方略の事前と事後の調査結果

t検定の結果

さらに上記についてt検定を行った。その結果，実験群（本学級）では役割取得能力が($t(29)=-3.49, p<.01$)，対人交渉方略が($t(29)=-12.5, p<.01$)となり，それぞれ有意差がでた。しかし，統制群では役割取得能力，対人交渉方略ともに，*n.s*と有意差はでなかった。

このことから，個の発達段階を高めるVLF授業の工夫は，役割取得能力と対人交渉方略を高めるために効果があったといえる。

3 全体 研究の視点1, 2を核にした総合単元的な道徳学習の実践は「思いやりの心を持ち、行動しようとする力」を育てるのに有効であったか

研究の結果と考察1, 2より、研究の視点1, 2を核にした総合単元的な道徳学習は、「思いやりの心を持ち、行動しようとする力」を育てるのに有効であったといえる。

VIII 結論

「思いやりの心を持ち、行動しようとする力」を育てるために、個の発達段階を高めるV L F授業を核にした総合単元的な道徳学習を実践した。その結論は次のとおりである。

(1) 個の発達段階を高めるV L F授業を核にした総合単元的な道徳学習を実践することは以下に示す通り、児童の思いやりの心と思いやりを行動しようとする力を育てるのに有効であった。

- ① 多角的思考トレーニングプログラムを週2回朝の会でさせたところ、10月の調査で役割取得能力がレベル0とレベル1であった9人の児童が1月の調査ではレベル2へと上昇していた。つまり、多角的思考トレーニングプログラムの実施は児童の役割取得能力を高めるのに効果があったことがわかる。
- ② 児童の発達段階を高めるV L F授業の工夫によって、役割取得能力の学級平均が0.3上昇、対人交渉方略の学級平均が1.1上昇した。また、統制群と比較したt検定の結果からも1%水準で有意差がみられた。

(2) 授業の中で教師の声かけにより、児童の発言レベルを上げることができてはまた、下がってしまうことがあった。

(3) 授業の中で、すべての児童にレベルに応じた声かけをするのは難しかった。

〈主な参考文献〉

- 渡辺弥生 『「こころの教育」実践シリーズ VLFによる思いやり育成プログラム』 図書文化 2001
- N・アイゼンバーグ, P・マッセン 『思いやり行動の発達心理』 金子書房 1991
- N・アイゼンバーグ＝バーグ, P・マッセン 『思いやりの発達心理』 金子書房 1980
- 林泰成 『ケアする心を育む道徳教育』 北大路書房2000
- J・ライマー, D.P.バオリット, R.H.ハーシュ 『道徳性を発達させる授業のコツ ピアジェとコールバーグの到達点』 北大路書房2004
- 鈴木憲 『道徳性の発達に影響を及ぼす役割取得に関する研究』 兵庫教育大学大学院教育研究科 卒業論文 1987
- 新垣千鶴子 『コールバーグ理論に基づく道徳授業の実証的研究』 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 卒業論文 1989
- 杉並区立杉並第八小学校 『共に生きる児童の育成～一人一人の力を高める道徳の授業を通して～』 2006
- 備前市立日生西小学校 馬場みどり 『思いやりの心をはぐくむ道徳指導に関する一考察-VLF道徳プログラムの工夫を通して-』 2006
- 愛媛県総合教育センター 教育経営研究室 谷井紀夫 『思いやりの心を育てる学級経営の在り方-VLFプログラムの実践を中心に-』 2006